

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4790700019
法人名	有限会社 福祉ネットワーク・やえやま
事業所名	グループホーム あかゆら
所在地	沖縄県石垣市浜崎町2丁目2番地10号 (電話) 0980-88-6075

評価機関名	沖縄県社会福祉協議会
所在地	沖縄県那覇市首里石嶺町4-373-1
訪問調査日	平成20年11月14日

【情報提供票より】(平成20年 9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 12 月 26 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤	8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8.4 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 7,500 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	350 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

(4) 利用者の概要(9月30日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	2 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.5 歳	最低	79 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やいま中央クリニック(入院病床あり) ・ 大山歯科医院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームあかゆら(県花「デイゴ」の意)は、周辺に市民会館・市立図書館や港湾ターミナル、アパートマンションの建ち並ぶ一角に位置し、赤瓦を取り入れた新しい建物である。運営者は長年の介護施設の勤務経験を生かし、個別ケアの徹底を目指し、「あかゆら」を開設した。利用者は「介護を受ける人」ではなく「生活する主体」。その能力を最大限に引き出して、出来ることはしていただく生活リハビリを心がけていることから、午前中には車いすの利用者が廊下の手すりを拭いていたり、居室の清掃を行っている姿が見られた。又、職員は日々のケアの質の向上を目指し、OJTを充実させ、センター方式を活用し、ぶれない個別ケアの実践がなされていた。利用者は午後のひとときを糸紡ぎ(芭蕉:ブー)、おしゃべり、居室でのくつろぎ、入浴など、思い思いに家庭的な雰囲気ですっきり過ごされていた。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 通所介護事業所の頃から、利用者と職員に同じアンケートで、年1回評価を継続しており、職員の自己評価の取り組みはスムーズにできた。利用者へのケアができていないか、介護が自己満足におわっていないか、日頃の介護の振り返りになった。日頃のケアに家族からの意見・要望などを受け止め、今後も前向きに取り組んでいきたい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は活発で、年間計画に新たな予定が追加されたり、土に触れる生活の大切さから、農園への取り組みが強化されている。「家族会を結成してはどうか」と家族代表から前向きな意見が得られ、現在検討している。又、宿泊利用者が少ない状況があり、お泊まり会行事を行い、ショートステイを軌道に乗せた。事業所が気付かない所の助言や、言いにくい行政への橋渡し役を担うなど、サービス向上につながっている。
	重点項目③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 日頃から、利用者本人・家族との信頼関係づくりに努め、何でも言ってもらえるような人間関係を目指して声かけを行っている。家族の意見・要望等は来所時に直接聞かされることが多く、すぐにサービスに反映させてもらっている。御意見箱もわかりやすい場所に設置されているが、利用はない。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 石垣島祭り・八重山産業まつり各種展示会への参加は、積極的に行っている。一月のムーデー行事にはムーデーを作り、ご近所にもお裾分けし、喜んでもらった。地域から不定期に、食材の差入れを受けたり、三線の弾き語り、舞踊、美容ボランティアなど交流は多い。又、運営者が認知症指導者資格を有する事から、市の地域包括支援センターや他事業所から、介護予防・認知症ケアの講話を委託され、地域に出向いている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	個別ケアの徹底を基本理念とし、「一人一人を尊重し、その人らしさを大切に共に手を取り合って、今の時を心穏やかに、安心して過ごせる生活環境を提供します」と掲げている。センター方式による「その人らしさ」を中心におき、住み慣れた地域で暮らし続けることができるように、個別ケアの実践をしている。		生活環境の中に、利用者を取り巻く地域催事・自治会活動への参加・交流などの地域活動も含むと理解し、利用者が地域で暮らし続けることができるような生活環境づくりに努めている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は事業所開設時に職員とともに作りあげた。職員採用時のオリエンテーション(2日)で、理念を実践に結びつけていけるよう半日かけて説明される。日常的なOJTにより、常に意識づけられるよう取り組み、スタッフ同士の協力体制や、具体的なケアの中で、理念を実践していけるよう情報共有している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者は地域各種催事へ積極的に参加。地域の方々が、不定期に食材の差し入れ、三線・舞踊慰問、美容ボランティア等が事業所を訪門、利用者とともに楽しいひと時を過ごす。又、運営者が認知症ケア指導資格者で、介護予防や認知症ケア講話の依頼を受け、他所に出向き、指導・広報するとともに交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	以前より、利用者・職員に年1回の評価を継続していたため、今回の自己評価の取組みはスムーズにできた。利用者へのケアができていないか、介護が自己満足に終わっていないか、日頃の介護の振り返りになった。日頃のケアに家族からの意見・要望を取り入れ、今回の外部評価も受け止め、前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は活発に開催されている。利用者が地域のお祭参加後、委員の自宅へ招待され「土に触れる」大切さに気づき、農園造成の取組みがスタートし、それが家族会の結成につながった。また、事業所の気づかない所への助言、進言しにくい行政への橋渡し役になってもらい、サービス向上に繋がっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期の運営推進会議以外にも各種行事への案内等により参加交流を図っているが、市担当者に事業所の抱えている課題等について相談を行っても、その対応に不満を感じ、連携をどう図ればいいのか困惑している。	○	管理者は実地指導の希望もあり、市担当者との連携も望んでいることから、本評価結果をきっかけとして、市担当者からの働きかけを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	来所した家族には日頃の生活状況を報告すると共に、活動時の写真等を見ていただいている。また、行事・日常生活・他の介護関係情報を載せたグループホーム新聞も発行している。来所できない家族には、定時又は必要時に電話で状況報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「本人のできること(体も頭も)をさせて下さい」という家族の要望により、利用者はそれぞれ得意な事・やりたいことをしてもらう。90代の方が糸紡ぎをしている。また、利用者本人ができることを自ら担当して、清掃・料理を分担して家事をこなしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の交代時には、新入職員に利用者が早く馴染んでもらうように紹介する。また、いきなり、新入職員が介入しないように、様子をみながら始めるなど、勤務配置への配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常業務の中にOJT(職業指導)研修担当を配置し、業務研修を充実させている。また、運営者は、職員が向上心を持って働けるように頻りに現場に入るとともに、職務に関する法人外の研修への積極的参加を認めている。先月は九州での認知症高齢者研修会に数名参加し、充実した体験をした。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会へ入会し、情報交換・研修の機会を得ている。「あかゆら」は市内3番目として開所したが、他施設との交流はまだ実現していない。しかし、運営者・管理者同士は、研修会などで顔合わせの機会も多いことから、交流についても話題になっており、その日も近い。	○	地元におけるグループホーム従事者の交流・相互研修は、サービスの質向上・情報交換のためにぜひ必要なことであり、早急に日程調整し実現されるよう望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービス利用相談時に来所した本人・家族に、実際にサービスが行われている場所を見学して頂き、雰囲気や活動などの説明を行っている。事前に「今」「何」に困っているのか、事業所はどのような対応ができるか話し合い、入居後、職員との関係づくりを行い、よりよい生活が行えるように進めていく。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者は人生の大先輩であることを、徹底して意識づけられる。支援する・されるではなく、お互い支えあう関係として、利用者が主体的な生活が営めるよう、声掛け、支援する。職員はそこで、利用者から人生・仕事の厳しさ・主婦の目線での生活の知恵など多くの事を学んでいる。又、利用者同士の関係にも気を配っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の状況から、本人の気持ち・行動が示している思いは何なのか、職員全体で常に話し合いを重ねている。利用者とその家族からの本人の馴染みの暮らし方・生活歴をふまえ、センター方式の活用により、「24H生活変化シート」や「私の姿と気持シート」の活用で、本人本位のケア計画が出来上がり、日頃のケアに活かされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常的に発生する様々なニーズに対し、スタッフ同士で話し合いながら、きめ細かに対応する。また、必要があったり、緊急を要する場合は家族に電話連絡し、話し合いの場を設け、意見をケア・プランに反映させている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の日々の生活記録で、小さな変化や言動なども具体的に記すセンター方式の個別ファイルをもとに、利用者の変化の早期発見に努め、即座にミーティングを持ち、プランの見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物・農園・散歩・美容室・教会など本人・家族の要望、その日の天気に応じ、柔軟に対応している。利用者の希望を取り入れ、利用者の生まれ島への感動的な小旅行も体験した。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前から本人・家族の希望でのかかりつけ医が継続される。定期検診には、家族同伴が基本であるが、不可能な場合職員が同行する。その際、医療情報として、ナースが記入した連絡票(利用者のホームでの毎日の心身状況記録及び職員の意見の集約)を持参する。主治医からの返信も、時折記入され戻ってくる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用契約時に、日常の健康管理、急変時の対応など、詳しく説明し、マニュアルも作成し、家族との取り決めも交わしている。現在、重度化・終末期の対象者はいないが、今後、事業所としての方針を検討していく予定である。		開業2年目を迎え、超高齢者をケアする当事業所において、人生の最終ゴールとなる終末期のターミナルケアについての事例研究をしてはいかがなものだろうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	全職員が個人情報保護・秘密保持の徹底に努めている。共用の場では、会話が筒抜けに聞こえるため、言葉かけ・誘導などにも本人のプライバシーを損ねないよう気をつけ、居室へはノックして入室、勝手にひとりでは入らない。個人ファイルについては鍵付き棚で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者を尊重し、その日の体調に配慮しながらその日その時の本人の気持ちを尊重し、個別性のある支援を行っている		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調査日昼食、ソーキ汁を2日前から利用者が職員とともに準備し炊き上げた。食事介助されながらの利用者も、90代の高齢者も方言を交えながら会話し、家庭的な雰囲気にあふれていた。時には利用者考案のメニューにしたり、嫌いな人には別途一品加わる等いつでも食べる楽しみを味わえるよう工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の一人一人の希望を確認しながら、入浴ができるように支援している。入浴を拒む利用者には無理に行わず、言葉がけや安心して入浴できるよう工夫し、チームプレイにより対応している。一人一人の入浴方法(時間・方法など)を一覧にして、いつでも対応できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	糸を紡ぐ(ブー: 芭蕉)生活歴のある利用者(90歳代)2名の長年の生活の連続性を大切に、その楽しみ事を続けられるよう支援している。また、お茶碗洗い、廊下の手すり拭き、居室の清掃など、主体的にそれぞれの役割や楽しみ事を担うことで張りのある生活が見受けられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物・ドライブ、農園の草取り・水巻、散歩など、利用者の希望で、外出の機会を増やし、事業所だけで過ごさないよう積極的に支援している。また、その時々写真の映すことで、家族への報告に活用される。初のドライブインオープン時の訪問では、たくさんの若者と楽しんだ。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中はすべての出入り口をオープンにし、居室に鍵はない。夜間11時には、保安上施錠している。たまに外出者がいるが、地域の人たちの連絡により、無事保護されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練のマニュアル作成のうえ、消防隊の協力を得て、利用者・周辺住民も加わり、防災訓練を実施した。消火器をはじめ、避難用パイプでの降下を利用者とともに実際に体験したことで、調理場の位置が建物構造上のネックであることが判明し、日常的に防火管理の徹底を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	材料の配分が一覧できる献立表で栄養バランスのとれた食事が提供され、どうしても苦手なものがあった場合、一品追加する工夫がなされている。朝・昼・夕3食スタッフがともに食事しながら、食欲・量・食べ方を確認する。それぞれのお茶碗で、水分補給の目安にしている。食事・水分量チェックが必要な人は毎日確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は明るく、バリアフリーで移動がスムーズに行える。空気清浄機を備え、温度湿度調整が程良くなされている。日中・夜間安心してもらうために、食堂・居間は明るくし、職員がいつでも近くにいるように努めている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談の上、出来るだけ本人の好みのものや使い馴染んだタンスや棚その他家具を持ち込んでいる。居室には洗面所が設置され、食後の口腔ケア・洗面などはできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。入口には、一人を除き、各部屋主の写真を掲げている。		